

2024年度 町田市立大蔵小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和7年3月31日

学校教育目標 「仲よく 助け合う子ども」「よく考え 工夫する子」「体をきたえ やりぬく子」	学校経営の重点 学校の主体は子供である。「あたりまえのことをあたりまえに」「だめなことはだめ」を基本姿勢として、子供の健やかな成長を願って教育活動を推進していく。
○目指す学校像……児童一人一人が大切にされ、生き生きとしている学校。 ○目指す児童・生徒像……「できる」「わかる」「もっとやりたい」という学ぶ喜びを味わい、互いのよさや成長を認め合い、学校へ行くことが楽しいと思える児童。 ○目指す教師像……専門性を磨き、学び合い、支え合い、高め合いながら組織的に課題解決に取り組むことができる教師。	重点目標の成果と課題 年度当初に比べ、挨拶ができるようになってきている。また、学び方を自ら選択し、主体的に学ぶ児童も増えてきている。学年によっては一部児童の規範意識が薄く、落ち着きがない様子も見られる。その児童と対話を重ね、日常の言動を分析すると「自信のなさ」や「自己肯定感の低さ」が原因の一つとして挙げられる。引き続き、粘り強く児童のより良い成長を目指し、教員の意識を統一することが課題である。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	地域の環境、資源、人材等を活用し、地域とともに教育活動を推進する。	学校運営協議会と連携して、目標や課題を共有し、教育の質の向上を図る。	4 必要情報の90%以上を周知・意見交換 3 必要情報の80%以上を周知・意見交換 2 必要情報の70%以上を周知・意見交換 1 必要情報の70%未満を周知・意見交換	4	A	A 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定的評価 55%未満	81	A	地域連携担当教員を中心にボランティアコーディネーターと連携して、地域の人材を活用し、地域とともに教育活動を推進することができた。さらに、学校運営協議会の委員と情報交換を行い、地域の環境や資源等を教育活動に生かすことができた。また、日々の教育活動を学校だけでなくボランティアコーディネーターやボランティア等を通して積極的に情報発信と公開をすることができた。	今後は同地区の地域連携担当教員との連絡会やボランティアコーディネーターとの地区ミーティングを通して、地域の資源や人材等を幅広く活用していけるよう情報共有をしていきたい。また、日頃の教育活動を知ってもらえるようにPTAの「子どもサポーター」や「猫スタ」等を通じて学校に足を運びやすい雰囲気を作っていく。さらに、PTA公式ラインやtotoru(テトル)配信により積極的な情報発信に努める。	・VCとの連携した取組、地域の力を借りて授業の充実を目指すのは子供たちの興味・関心を広げられるチャンスである。 ・地域の企業を巻き込み、子供たちが学べる機会を確保する必要がある。	A
			VCと連携し、外部講師やボランティアを積極的に活用し、地域学校協働活動の充実を図る。	4 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の90%以上を実施 3 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の80%以上を実施 2 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の70%以上を実施 1 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の実施が70%未満	3	B	A 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%未満	77	B				
			ホームページや学校だよりを充実させ、学校の様子を定期的に情報発信していく。	4 週4回以上の更新 3 週3回以上の更新 2 週2回以上の更新 1 週1回以上の更新	3	B	A 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定的評価 55%未満	91	A				
			日々の教育活動や行事等を積極的に公開していく。	4 90%以上のクラスで意識して公開に努めた 3 80%以上のクラスで意識して公開に努めた 2 70%以上のクラスで意識して公開に努めた 1 公開に努めたクラスが70%未満だった。	3	B	A 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定的評価 55%未満	94	A				
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確かな習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	子供の学習へのつまずきの原因を明らかにして、授業改善を図る。	「たつじんテスト」の活用を中心にアセスメントをとり、つまずきを取り除き、個に応じた指導の充実を図る。	4 全学級が計画的に取り組んだ。 3 90%以上の学級で計画的に取り組んだ。 2 80%以上の学級で計画的に取り組んだ。 1 計画的に取り組んだ学級が80%未満。	4	A	A 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定的評価 55%未満	90	A	(株)内田洋行の「たつじんテスト」を活用して、子供の学習状況を把握し、つまずきの原因を明らかにすることで、個に応じた指導の充実を図ることができた。また、(株)先生生の幸せ研究所より講師を招き、協働的な学習と個別最適な学習について理解を深めることができた。ICTの活用については、全教員がプロジェクターやクロームブックを駆使し、より分かりやすい授業となるよう授業改善に努めてきた。その一方で、子供が主体的に学習に取り組む姿勢やICTを正しく活用する態度については、まだ課題が見られる。	今後は友達との学びあいを取り入れた授業を展開し、協働的な学習を充実させ、主体的に学習を進めることができる子供を育てていきたい。また、クロームブック等のICTを活用する際の約束やきまりを守るとともに、情報モラルを身に付けられるよう指導を重ねていく。そして、ICTを活用する効果や意義を十分に理解した上で、デジタルとアナログを使い分けて学習を進められる子供を育てていきたい。	・黒板とプロジェクター両方を使用した授業は子供たちの集中力を高めているように見えた。次に何を行うかが板書されていることで学習に集中できるきっかけとなっている。 ・自己肯定感の向上を含め、今の取組は必ず結果につながると思う。 ・学ぶことに興味をもたせることで学力向上につながる。 ・学ぶことの楽しさや仲間と学びあう喜びといった学力の根幹となる取組を行ってほしい。	B
			協働的な学びを通して、自分の考えを多様な方法で表現させる。	4 全ての教育活動において意識して取組んだ 3 90%以上の教育活動で意識して取組んだ 2 80%以上の教育活動で意識して取組んだ 1 80%未満の教育活動で意識して取組んだ	3	B	A 全職員の達成度評価肯定的評価 80%以上 B 全職員の達成度評価肯定的評価 70%以上 C 全職員の達成度評価肯定的評価 55%以上 D 全職員の達成度評価肯定的評価 55%未満	75	B				
			主体的に学びに向かう児童を目指し、学習に進んで取り組む態度を育てる。	4 全ての教育活動において意識して取組んだ 3 90%以上の教育活動で意識して取組んだ 2 80%以上の教育活動で意識して取組んだ 1 80%未満の教育活動で意識して取組んだ	2	C	A 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定的評価 55%未満	63	C				
			プロジェクター、クロームの活用を推進し、めあてに応じてICTを活用できる力を育てる。	4 全ての教育活動において意識して取組んだ 3 90%以上の教育活動で意識して取組んだ 2 80%以上の教育活動で意識して取組んだ 1 80%未満の教育活動で意識して取組んだ	2	C	A 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT活用」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT活用」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT活用」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT活用」肯定的評価 55%未満	66	C				
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすること意識・意欲・態度を育てる。	相手の思いやる心を育てる。	いじめの未然防止、早期発見に取り組むとともに、不登校(傾向)児童への寄り添った対応を行う。	4 いじめ防止の授業を月に1回以上指導実施 3 いじめ防止の授業を学期に2回以上指導実施 2 いじめ防止の授業を学期に1回以上指導実施 1 いじめ防止の授業を年に2回以上実施	3	B	A 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止の取組」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止の取組」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止の取組」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止の取組」肯定的評価 55%未満	65	C	全教員で「大蔵小スタンダード」をもとに共通指導を心掛け、規範意識の徹底を図っている。また、教員がすすんで子供に挨拶をすることで、自らすすんで挨拶を交わす子供が増えてきた。このことで、良好な人間関係を築き、学級の雰囲気よくなってきた。いじめ防止の取組や心の教育については日頃より各学級で意図的・計画的に指導を行い、保護者に学校での取組を伝えている。個別の関わりが多いため、全体への周知も可能な範囲で行っていく必要がある。不登校対応については環境面での整備は進んでいるが、人員面での不足が大きな課題である。	今年度の生活指導では、「人」「もの」「きまり」を大切に子供を育成できるように教職員で共通認識をもって指導にあたった。挨拶については自分からすすんで行うことができるようにするとともに、挨拶の意義や良さについて指導していきたい。また、いじめ防止の取組については保護者会や学校だより等で広く保護者に情報を発信するとともに、道徳や学級活動での心の教育についても授業参観等で積極的に公開していきたい。不登校対応等の発信は難しい面もあるが、引き続き環境を整えていく。	・子供が困っていることを聞き取る「心のアンケート」は大変良いと思う。また、先生方もしっかりと話を聞こうという姿勢がある。 ・子供の実態を把握する方法を検討し、いじめを解決できる仕組みを作れないか。	B
			道徳授業や学級活動を中心として、安心して自分の考えを言える学級づくりを行う。	4 すべての道徳授業や学級活動で指導実施 3 90%以上の道徳授業や学級活動で指導実施 2 80%以上の道徳授業や学級活動で指導実施 1 80%未満の道徳授業や学級活動で指導実施	3	B	A 学校評価アンケート「心」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「心」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「心」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「心」肯定的評価 55%未満	72	B				
			「大蔵小スタンダード」に従って、統一した指導の下で、規範意識の徹底を図る。	4 90%以上の指導場面で実施 3 90%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	4	A	A 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定的評価 55%未満	88	A				
			自らすすんで挨拶をする子の育成を図るため、教員からすすんで挨拶をする。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	4	A	A 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定的評価 55%未満	84	A				
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と食育の充実を通して、基礎体力の向上を図る。	体育の授業改善を図るとともに、一校一取組を充実させ、体力向上を図る。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3	B	A 学校評価アンケート「エ」①「運動やスポーツ」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「エ」①「運動やスポーツ」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」①「運動やスポーツ」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「エ」①「運動やスポーツ」肯定的評価 55%未満	78	B	運動やスポーツに日常的に親しむ子とそうでない子の差が見られる。食生活を含む生活習慣についても、しっかり身に付いている子とそうでない子の差が見られる。安全指導については、危機管理マニュアルをもとに、子供が安心して学校生活を送ることができるよう訓練等を通じて指導を徹底している。また、週に1度の生活指導の打合せで、危機管理情報を共有するとともに必要に応じて専門機関と連携を図ることで、被害防止教育を充実させている。	一校一取組や体力テストを通じて、運動に興味をもち楽しく体を動かせるように体育の学習や休み時間の過ごし方について再度検討していく必要がある。また、健康な心と体をつくるには運動のほかに食事や休養等も必要であることを理解し、家庭と連携して取り組んでいきたい。安全指導については引き続き、危機管理能力を育成することができるように日頃の訓練や指導を意図的・計画的に実施していくようにする。特に、校外での安全管理については保護者や地域、専門機関に協力を依頼していくようにする。	・子供の中には「なぜ運動をする方がよいのか」、「運動をしなくても生きていける」と話す子がいる。運動をする意義についても教えることが大切かもしれない。	A
			食への関心を高め、家庭との連携を図りながら、望ましい生活習慣の確立への意識付けを行う。	4 全ての指導場面で実施 3 90%以上の指導場面で実施 2 80%以上の指導場面で実施 1 80%未満の指導場面で実施	3	B	A 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「エ」②「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%未満	84	A				
			危機管理マニュアルの内容を確実に理解し、児童が安全に安心して学校生活を送ることができるようにする。	4 安全指導の授業で月に1回以上指導実施 3 安全指導の授業で学期に2回以上指導実施 2 安全指導の授業で学期に1回以上指導実施 1 安全指導の授業で年に2回以上実施	4	A	A 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 55%未満	92	A				
			毎週金曜日に危機管理情報を共有し、専門機関とも連携を図り、チーム支援力を高め指導の充実を図る。	4 全ての指導場面で実施 3 90%以上の指導場面で実施 2 80%以上の指導場面で実施 1 80%未満の指導場面で実施	4	A	A 全職員の達成度評価肯定的評価 80%以上 B 全職員の達成度評価肯定的評価 70%以上 C 全職員の達成度評価肯定的評価 55%以上 D 全職員の達成度評価肯定的評価 55%未満	80	A				
その他	「学校2020レガシー」の取組を通して、共生社会の実現を目指す。	人権意識、国際感覚、障がい理解等の醸成を図る。	共生の精神を育むための体験的活動を取り入れた学びを実施する。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3	B	A 全職員の達成度評価肯定的評価 80%以上 B 全職員の達成度評価肯定的評価 70%以上 C 全職員の達成度評価肯定的評価 55%以上 D 全職員の達成度評価肯定的評価 55%未満	75	B	さまざまな年齢や立場の人と交流や体験活動を通じて、人権意識や障がい理解等の醸成を図ることができている。	今後は国際感覚が身に付くように、英語や外国語活動の学習を充実させるとともに、多様な人への理解を深めていく必要がある。	・もっと校外の方を巻き込んで共生社会の実現に向けて取り組んでほしい。	B